

今月の便り

ユキバヒゴタイ

キク科のユキバヒゴタイ（雪葉平江帯 *Saussurea chionophylla*）は、夕張岳では蛇紋岩崩壊地（吹き通し）と日高山脈北部はカンラン岩地の固有種で、高山帯の砂礫地や岩混じりの草地に生える多年草です。葉の裏に毛が密に生え真っ白に見えることから雪葉とつけられました。ヒゴタイの語源はよくわかりません。

草丈は5～15cm、葉は長さ4～8cmの卵心形で、地面を覆うように広がります。葉の表は濃緑色で艶がありますが薄く白い毛をまとっていることもあります。茎頂の散房状花序に、赤紫色の花を数個まとまって付けます。小花はすべて筒状花で、直径1cmほどです。

本種は和名にヒゴタイと付いているため、ヒゴタイ（*Echinops setifer* 九州に自生する植物で肥後躰とも書く）の仲間と思われそうですが、本種はトウヒレン属で、姿形はまったくの別物です。トウヒレン属で和名にヒゴタイと付く植物が本種の他に数種あり、とてもややこしいです。

蛇紋岩やカンラン岩が風化し土壌となる過程でマグネシウムイオンが溶け出し植物の根からの水分吸収を阻害します。そんな場所で生きていけるように変化しているためその山にしかない固有種が多くなるのです。環境省が作成しているレッドリストでは、ユキバヒゴタイは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されています。原因は盗掘、エゾシカの食害、踏害などと言われています。（いとう）



ユキバヒゴタイ
Saussurea chionophylla

百合の花

百合は、凛とした美しさと上品な香りが魅力の花です。白や黄色、ピンク、オレンジなど花色も豊富で、品種によって花の形や香りなど、咲く時期も異なります。大きく開いた花は存在感があり、1輪咲くだけでも庭の景色を華やかにしてくれます。切り花にして、室内に飾れば、花の美しさと香りを身近に楽しむこともできます。初夏から夏にかけて咲く百合は、庭を華やかに彩り、風に揺れる姿もとても美しいものです。品種によっては毎年少しずつ株が大きくなり、花は数が増えていく楽しみもあります。

北海道では、秋の10月末ごろまでに球根を植え付けます。植える深さは、球根の大きさの約3個分を目安に、深めに植えます。冬の厳しい寒さを土の中でじっと越し、春になると

＊「今月の便り」次ページへつづく⇒

芽を出し、夏には美しい花を咲かせてくれます。季節の移り変わりを感じながら育てる事ができるのも、百合の大きな魅力です。(たかはし)

庭で堆肥作り

「庭の土で育てた植物を庭の土に戻すこと」

今回は私が実践している堆肥作りを一例として紹介します。本やインターネットを調べればさまざまな方法があるので、実践しやすく納得できるものを参考に是非試して下さい。春先に土を買う量が減って経済的です。

私の方法は堆肥を少なくとも 60℃位まであげて雑草の種や病原菌を抑える方法です。材料は雑草や庭の植物、剪定枝、米糠、水。それと堆肥を覆うブルーシート。

まず 7 月後半ぐらいまでは除草や剪定で出た植物材料をただ一箇所に重ねておきます。剪定枝はなるべく小さめに切っておくこと。ドクダミなどすぐ根を張るものはしっかり乾かしたり、踏みつけてから積んでください。

8 月過ぎて材料がいっぱいになったら、一旦積んだ山を崩し積み直します。地面を平らにしてから 10～20cm ぐらい①茶色になったものと新鮮な緑の植物を平らに積んでから、②米糠。その上に③土を隠れるぐらいかけます。ちょっと踏みつけてから水をジョウロでサッとかけてまた①②③を何回か繰り返してミルフィーユ状に積みます。積み終わったら最後に全体にしっかり水をかけます。水が少ないと発酵しません。水は下から流れ出ないギリギリまでかけてしっかりなじませ、最後にブルーシートをかけて発酵中の堆肥が乾燥や雨でびしょびしょになることを防ぎます。暑い夏にすることだから数日で 60℃位になります。時々シートをめくって様子を見ながら、湯気が立たず温度が下がっていたら 1 回目の切り返しです。

切り返しをして混ぜるのは堆肥にムラがでないためです。切り返しは秋まで定期的に行います。切り返しの時に(熟成中に)水分が少なすぎる時は水を足し、手でぎゅっと握ってみて水分を感じるぐらいに保つようにします。8 月に作るので雪が降る前に完熟しています。冬はそのまま寝かせます。大事なのがネズミの巣にさせないように。ネズミの害が多いお宅は対策を。シートの上で足踏みなどをしたり、そばにネズミ捕りをしかけてください。一冬寝かせたふかふか手作り堆肥は春先に畑や花壇で使います。失敗しない使い方は土に混ぜるのではなく被せて使う方法です。春に畑の苗を植えてから畝の上を出来上がった堆肥で 2～3cm 覆います。草が生えづらく保水性もです。

混ぜ込まない理由は自家製堆肥の成分が一定ではないからです。下手に土に混ぜ込んで窒素飢餓などになるよりマルチとして使い、自然に土に馴染ませた方が安全です。

堆肥作りのコツとしては、春先から溜めていた茶色に枯れた植物に 8 月の積み直す直前に刈った緑の草も混ぜ込むこと、そして発酵中は乾燥させないこと。また、もし米糠が手に入らない時、私は油粕と溶性リン肥の混合で代用します。こちらは参考までに。

植物は時間が経てば全て土に還るので失敗はありません。是非チャレンジを。(きのした)



ひとつき ひとバラ



文： 小 林 薫
(いわみざわ公園バラ園)



第百四十一回

ハイブリッドスピノシッシマ

スタンウェルパーペチュアル

Stanwell Perpetual 作出者：James Lee

作出国：イギリス

作出年：1838 年（1821 年以前、1834 年、1899 年という説もある）

ハーディネスゾーン：Z3b ～ Z9b

返り咲き

交雑：Quatre Saisons Rose × R. spinosissima

今回はスピノシッシマの仲間、スタンウェルパーペチュアルをご紹介します。原種であるスピノシッシマの血を引くバラの中で、おそらく最も広く流通し、育てられているのがこの品種ではないでしょうか。八重、ロゼット咲きで、花径は 8cm ほどと大きめ。ごく淡いピンクの花弁は咲き進むと白に変化していきます。交配親のキャトルセゾン譲りで香りもよく、枝はもう片方の交配親のスピノシッシマ由来でトゲが多いですが、野趣も感じる楚々とした美しさがある品種です。デヴィッドオースチンは著書の中で、スタンウェルパーペチュアルにヒントを得て一季咲きのオールドローズと反復開花するモダンローズの交配を始めた、と述べています。

そんな魅力が沢山のバラですが、古すぎるために出自がはっきりしていません。作出は 18 世紀～ 20 世紀初めに活躍したイギリスの老舗ナーセリー「リーアンドケネディ」社とされていますが、こぼれ種から育った実生苗が偶然発見された、と推察されています。交配親はキャトルセゾンと言われてきましたが、2023 年に発表された研究の遺伝子鑑定によってそれが正しかっ

たことが証明されました。（キャトルセゾンは唯一返り咲きのあるダマスクローズで、ブルボンやポートルランドなどの新系統を生み出した重要なバラです。）

そしてもう一方の交配親が R. spinosissima と言われています。このことからスタンウェルパーペチュアルが「スコッツローズ」として紹介されることがありますが、スコッツローズ研究家のピーター・ボイド氏によると、片親が交配品種であることで、「スコッツローズ」とは外観・性質が異なると述べています。外観については、おそらくスタンウェルパーペチュアルの長く伸びる枝や、大きめの花を指していると思われます。（原種スピノシッシマの血を強くひいたスコッツローズは、こんもりと茂る樹形と小さな花などが特徴です）また病気知らずのスコッツローズに比べ、少々黒点病の影響が出るようです。

長々と書き連ねましたが、この長い間、世界中で愛されてきたのも納得の美しいバラです！当園ではカミキリムシに入られてしまい株が小さくなってしまいましたが、レストラン近くの芝生内に植栽しています。機会があれば、ぜひご覧ください！

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い！



●9月13日（日）楽しいキノコの見分け方 13:00～15:00

参加費：無料 定員：40名 講師：伊藤 幸秀 さん

●9月19日（土）ばらゼミ⑦ 10:00～12:00

参加費：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん

●9月20日（日）飾って楽しい植物画～バラ園の樹や植物を描こう～

13:00～15:00

材料費：300円 定員：10名 講師：木下 京子 さん

●9月20日（日）・9月27日（日）・10月3日（土）

バラ管理スタッフのローズツアー・秋 13:00～15:00

参加費：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●9月26日（土）バラ園のバラを使ったアレンジメント 13:00～15:00

材料費：2,000円 定員：20名 講師：大和田 由紀子 さん

●10月4日（日）早春を彩る球根を植えよう 13:00～15:00

材料費：3,500円 定員：10名 講師：高橋 かつえ さん

※お申し込みは講座開催月の1日（休園日の場合は翌営業日）

9:00～電話で受付しております。

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話 :0126-25-6111 ホームページ :<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。